琉球大学学術リポジトリ

［抄録］トマト青枯病の発生における病原細菌とネコブセンチュウとの混合感染

メタデータ	言語:
	出版者: 沖縄農業研究会
	公開日: 2009-01-29
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 田盛, 正雄（抄録）, Tamori, Masao
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002015186

トマト青枯病の発生における病原細菌とネコブセンチュウとの混合感染

（桂　琦一・植村則大：京都府立大学学術報告15：33～36，1963）

この報文はトマト青枯病が，その病原細菌 *Pseudomonas Solanacearum* とサツマイモネコブセンチュウ *Meloidogyne incoqnita* Chitwood との混合感染によっておこることを明らかにし，さらに本病が根に傷がある場合のみに発病することを報告した．1）根部付傷の有無と発病：根に傷をつけた有傷区と傷をつけない無傷区に分け，それぞれに細菌を接種したところ，第1回，第2回目の実験とも無傷区は発病0に対し，有傷区においては，第1回目の実験では24日後に85.2%，第2回目の実験では21日後に82.0%も発病した．2）ネコブセンチュウと細菌の混合感染：細菌区，線虫区，細菌＋線虫区，対照区の4区に分けて実験したところ細菌区，線虫区，対照区ともに発病率0に対し，細菌と線虫とを混合接種した区においては21日後に，接種箱を使用した区で81.8%，ポットを使用した区で80.4%の高い発病率を示し，サツマイモネコブセンチュウによる青枯病病原細菌の混合感染がおこることを明らかにした．

（抄録　田盛正雄）